

## 2021年度 第2回公開研究会のご案内

2021年12月吉日

東海日中関係学会会長 川村範行

拝啓 時下ますますご清栄の段大慶に存じます。平素は、当学会の運営につきまして格別のご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2021年度の第2回公開研究会を下記のとおり、会場参加とオンライン参加（ZOOM）のハイブリット型で実施いたします。会場では“三密”を避けるため、3人掛け長机に1人着席とし、定員40名（先着順）とします。入り口に消毒液を設置し、窓を開けるなど、新型コロナウイルス予防対策には万全を期す所存です。どうか積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

日時：2022年1月29日（土）14：00～15：30（受付開始13：40～）

会場：中統奨学館ビル4階 名古屋市中区栄4丁目16番29号 TEL 052-262-1410

<発表者と発表テーマ>

**演題**：「没後350年、尾張藩祖に仕えた陳元賛の生涯と思想」

**発表者**：文学博士 李麗

（名古屋大学大学院人文学研究科非常勤研究員、陳元賛研究会副会長、当学会員）



陳元賛(1587～1671)『肖像集』栗原信充画（国立国会図書館のウェブサイトより転載）

**陳元賛**（明・杭州生れ）

江戸時代初期は多くの明人が日本へ渡来して日本の文化人と様々な交流を行った。陳元賛は元和5（1619）年に来日し、寛永3（1626）年将軍家光に謁見した。尾張藩初代藩主徳川義直がその名声を聞いて尾張に招聘し、尾張藩で生涯を終えた。在日すること52年にわたり、書道、詩文のほか、「元賛焼」と呼ばれる陶器の作り方、定光寺源敬公廟の設計、武術など、中国の文化を日本に伝達し、尾張藩にとどまらず日本文化を高めることに貢献した。特に、その代表作『老子経通考』は、当時流行の林希逸(1193－1271)の『老子』解釈を批判し、「虚無とは、実理なり」と述べ、『老子』の学問が実学だと主張し、日本近世における『老子』の受容に影響を与えた。没後は尾張徳川家の菩提寺建中寺に葬られ、2021年6月に350年回忌が執り行われた。

\*なお、当初予定していました、賀詞交換会は新型コロナウイルス・オミクロン株の急激な蔓延拡大により、中止させていただきます。

<参加費>

【会場参加（先着 40 名）】 学会員：無料、一般：1,000 円／学生：500 円（資料代込み）

【オンライン参加（ZOOM、先着 80 名）】 学会員、一般とも無料

<参加方法>

下記の参加申込書にご記入の上、FAX あるいは E-mail にてご回答願います。締め切りは 1 月 22 日とさせていただきます。オンライン参加者には ZOOM の招待メールを開催前にお送りします。

お申込み・お問合せ：東海日中関係学会 事務局

〒458-0824 名古屋市緑区鳴海町有松裏 86-15 東アジア・日中関係研究所内

E-mail tokai.n.c.a@gmail.com FAX 052-624-7878

.....

2021 年度 第 2 回公開研究会 参加申込書

参加方法を選び、括弧内に○を付けた上で、該当する参加資格の括弧内にも○をお付けください。

- ・会場参加（ ）、オンライン参加（ ）
- ・学会員参加（ ）、一般参加（ ）、学生参加（ ）

氏 名： \_\_\_\_\_

連絡先（学会員の方は変更があればご記入ください）： \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_ / E-mail \_\_\_\_\_